

授業概要

現在、金融緩和・財政出動・成長戦略を駆使して、強い経済を作り上げようということが政府によって進められています。しかし、実際におこなわれているのは、日本銀行による「大胆な金融緩和」だけであると考えられます。たしかに、円安が進み株価も上昇してきました。ところが、輸入価格は上昇しているものの、デフレはなかなか本格的に終わりそうにありません。

アメリカでのトランプ政権の登場でアメリカ経済と世界経済は大きく変わろうとしています。変容しつつある現下の世界経済について詳しく議論します。

前期は、世界経済と日本経済に関するテーマを定めて議論し、後期は、各自にテーマを設定してもらって、小論文の作成をしてもらいます。

授業計画

第1回	演習の概要	第16回	後期演習の概要
第2回	トランプ政権誕生をどう見るか	第17回	学術論文とは何か
第3回	なぜトランプ政権が登場したのか	第18回	テーマ設定の留意点
第4回	1980年代末の日本の資産バブル	第19回	文献検索の方法
第5回	平成大不況の長期化	第20回	テーマと概要の発表(1)
第6回	1990年代末のアメリカITバブル	第21回	テーマと概要の発表(2)
第7回	2000年代初頭の欧米の資産バブル	第22回	論文作成の留意点
第8回	世界金融危機の勃発	第23回	研究発表(1)
第9回	フル出動する欧米の中央銀行	第24回	研究発表(2)
第10回	デフレはマネー現象か	第25回	研究発表(3)
第11回	日銀の大胆な金融緩和	第26回	研究発表(4)
第12回	2%のインフレ目標は達成不能	第27回	研究発表(5)
第13回	インフレ高進の可能性	第28回	論文の作成の仕方
第14回	日本経済と日本経済のあり方	第29回	論文の作成と提出
第15回	前期演習のまとめ	第30回	演習のまとめ

到達目標

現在のトランプ政権下の世界経済と日本経済の本質的な問題点はどこにあるかということの基本を理解してもらうことが到達目標です。

後期には、世界経済や日本経済に関するテーマを選び小論文を作成してもらいます。

その際、社会科学系の演習ですので、突っ込んだ議論に耐えられるような研究レベルの到達をめざします。

履修上の注意

現実の世界経済と日本経済の動きを取り上げて議論しますので、新聞は、必ず読んでください。日々、報道されるテレビやラジオなどのニュースにも関心を持ってください。取り上げるテーマについて事前に勉強してください。また、ゼミが終わったら、議論のまとめをしてください。

予習復習

研究発表では、論旨を明快にするように準備し、批判された点はどこがおかしいか見直してください。

評価方法

演習での発表(50%)、発言(30%)や取り組み状況(20%)などによって評価します。

テキスト

テキストや参考文献は、必要におうじて演習中に指示します。

授業概要

本演習では、近代経済学の手法を用いて経済を分析し、有効な政策を提言することができるようにすることを主目的とする。近代経済学の手法とは、統計的な方法を用いた計量経済学の手法のことである。例えば、経済活動水準が低いときには減税を実施すべきなのか、公共投資を実施すべきなのか。それを的確に判定するためには、現在の経済状況をモデル化する必要がある。

そのため、経済学の理論を習得するとともに、現実のデータを用いて経済分析をするための統計学の方法も駆使できるように指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第17回	統計モデル解析の方法1
第2回	EXCELの復習1	第18回	統計モデル解析の方法2
第3回	EXCELの復習2	第19回	統計モデル解析の方法3
第4回	EXCELの復習3	第20回	統計モデル解析の方法4
第5回	EXCELの復習4	第21回	統計モデル解析の方法5
第6回	EXCELの復習5	第22回	統計パラメーターの考察1
第7回	アドインソフトの使い方1	第23回	統計パラメーターの考察2
第8回	アドインソフトの使い方2	第24回	統計パラメーターの考察3
第9回	アドインソフトの使い方3	第25回	統計パラメーターの考察4
第10回	アドインソフトの使い方4	第26回	統計パラメーターの考察5
第11回	アドインソフトの使い方5	第27回	モデル分析の応用1
第12回	必要なデータの収集方法1	第28回	モデル分析の応用2
第13回	必要なデータの収集方法2	第29回	モデル分析の応用3
第14回	必要なデータの収集方法3	第30回	モデル分析の応用4
第15回	必要なデータの収集方法4	第31回	まとめ
第16回	中間テスト	第32回	期末テスト

到達目標

経営や経済のデータを分析するために、的確な統計モデルを構築し、計算結果を解釈することができるようになることが、本講義の到達目標である。幸い、EXCELには多様な統計処理ソフトが組み込まれているので、それらを有効に活用して適切な統計処理ができるようになってほしい。

履修上の注意

パソコンの実習が中心となるので、パソコンの操作（表計算とワープロ）は身につけておいてほしい。ただし、それらは必要条件ではないので、演習で指導をする。しかしながら、そうした受講生は人一倍努力してもらいたい。

予習復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

評価方法

出席状況とその時々課す課題の提出状況を判断する。

テキスト

今のところは特定のテキストを指定することは考えていないが、演習の進行状況に応じてこちらから指定することがある。

授業概要

本演習では、企業会計理論の学習を対象として、特に国際会計の全般的、基礎的の把握に努めるとともに、各自の関心分野についての問題意識の形成、問題の構築、問題の分析を行う。春期では、国際会計の基礎的知識をマスターするために、テキストを選定し輪読する。秋期では、各自が関心をもつテーマについて報告と討論を行う。また、年2回、レポートの提出を求める。

授業計画

第1回	国際会計の意義と研究領域	第16回	IFRSの要点解説 (P/L項目)
第2回	国際会計制度の沿革1 (IASC)	第17回	IFRSの要点解説 (P/L項目)
第3回	国際会計制度の沿革2 (IASB)	第18回	各自のテーマの報告と討論1
第4回	主要国の会計国際化1	第19回	各自のテーマの報告と討論2
第5回	主要国の会計国際化2	第20回	各自のテーマの報告と討論3
第6回	主要国の会計国際化3	第21回	各自のテーマの報告と討論4
第7回	主要国の会計国際化4	第22回	各自のテーマの報告と討論5
第8回	IFRSの基礎知識1	第23回	各自のテーマの報告と討論6
第9回	IFRSの基礎知識2	第24回	各自のテーマの報告と討論7
第10回	IFRSの要点解説 (B/S項目)	第25回	各自のテーマの報告と討論8
第11回	IFRSの要点解説 (B/S項目)	第26回	各自のテーマの報告と討論9
第12回	IFRSの要点解説 (B/S項目)	第27回	各自のテーマの報告と討論10
第13回	IFRSの要点解説 (B/S項目)	第28回	論文作成の基礎1
第14回	IFRSの要点解説 (P/L項目)	第29回	論文作成の基礎2
第15回	春期のまとめ	第30回	秋期のまとめ

到達目標

- ・発表レジメの作成及び発表能力の向上
- ・卒業論文作成の準備作業及びテーマの決定

履修上の注意

- ・毎回必ず出席してほしい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性やレジメ・発表のでき具合等を考慮して、総合的に評価する。

テキスト

- ・開講時に指示する。
- ・必要に応じて、プリントなどを配布する。

授業概要

地球規模では人口が急増しており、各国の平均寿命も延びてきました。しかしながら、医療を中心とするヘルスケアの分野においては、格差が大きく、人の命を扱う領域であることを考えると、質の保証や標準化、グローバル化は今後より重要になってきます。急成長している「ヘルスケアビジネスおよび周辺ビジネス」に関し多面的に学習します。「ヘルスケアサービス」を取り巻く社会においては、今後どのような仕組みや発想の転換が必要であるかについて、最新のヘルスケアビジネス情報をもとに理解を深めることを本演習の目的とします。メディカル・ツーリズムも含め、ヘルスケアのグローバル化（UHC ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）が進んでいることについても、学習していきます。また個別研究テーマを持ち、文書作成、図表の理解などを通して、論理的思考、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力向上を目指します。

授業計画

第1回	ヘルスケアの特徴	第16回	代替・補完医療（6）ミュージックセラピー
第2回	ヘルスケアビジネスの定義と範囲	第17回	代替・補完医療（7）アニマルセラピー
第3回	病院、診療所、薬局（1）	第18回	代替・補完医療（8）コスメティックセラピー
第4回	病院、診療所、薬局（2）	第19回	代替・補完医療（9）ガーデニングセラピー
第5回	薬局、ドラッグストア（1）	第20回	医療従事者理解（1）医師、歯科医師
第6回	薬局、ドラッグストア（2）	第21回	医療従事者理解（2）薬剤師、看護師、その他コメディカル
第7回	医薬品業界（1）	第22回	医療従事者理解（3）医療事務①
第8回	医薬品業界（2）	第23回	医療従事者理解（4）医療事務②
第9回	医療機器業界（1）	第24回	介護ビジネス（1）
第10回	医療機器業界（2）	第25回	介護ビジネス（2）
第11回	代替・補完医療（1）中国医学：気功他	第26回	介護機器・ロボット業界（1）
第12回	代替・補完医療（2）アーユルヴェーダ	第27回	介護機器・ロボット業界（2）
第13回	代替・補完医療（3）ホメオパシー	第28回	メディカル・ツーリズム（1）
第14回	代替・補完医療（4）アロマセラピー①	第29回	メディカル・ツーリズム（2）
第15回	代替・補完医療（5）アロマセラピー②	第30回	ヘルスケアのグローバル化（UHC）

到達目標

- ・ヘルスケアの特徴が理解できる
- ・ヘルスケアサービスが理解できる。
- ・医療ビジネス/介護ビジネスが理解できる。
- ・代替・補完医療と各療法が理解できる。
- ・医療周辺のビジネスが理解できる。
- ・ヘルスケアのグローバル化について考えることができる。

履修上の注意

演習では、「医療事務技能検定試験講座」、「アロマセラピー検定2級講座」に関する内容にも触れます。これまでの演習においてヘルスケアビジネスについて学習してこなかった学生の皆さんも大歓迎です。

予習復習

専門的用語が多いので、事前学習及び各単元後の復習の習慣を身につけるようにしてください。

評価方法

試験（最終レポート含む）60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

松室孝明 『ヘルスケアビジネス成長戦略研究』ダイヤモンド社 2015
 その他必要に応じてコピー配布します。

授業概要

本ゼミは「財務会計の諸問題や企業の会計情報に関心のある学生が、卒業論文作成のための基礎知識を習得すること」を目的とする。財務会計の役割は、企業の経済活動を描写して、報告（情報提供）することである。3年次には、企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』などを使用して財務会計に限定せずに指導する。（ただし、ゼミ生が財務会計に特化した内容を希望する場合には、下記計画のうちの春期の内容を財務会計中心のものとする。）

また、履修者の人数にもよるが、就職活動を考慮するとグループワークの演習は欠かせないと考えている。そこで、秋期にはグループによるレポート作成コンテスト（学外主催）への投稿を行うように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス・上場企業について	第16回	夏季休業期間中の課題の報告
第2回	上場企業の選択と下調べ	第17回	上記報告を踏まえた課題の討論
第3回	有価証券報告書の概要	第18回	各自の課題に関連する業界研究①
第4回	主要な経営指標①	第19回	各自の課題に関連する業界研究②
第5回	主要な経営指標②	第20回	第20回から第23回は
第6回	沿革	第21回	上記検討を踏まえた資料収集・報告
第7回	事業の内容	第22回	・検討の繰り返し。
第8回	企業集団など	第23回	チームの統一テーマ・章立ての決定
第9回	業績の概要①	第24回	第24回から第26回は
第10回	業績の概要②	第25回	チームレポート作成のための
第11回	対処すべき課題	第26回	資料収集・報告・討論の繰り返し
第12回	事業リスク	第27回	レポートの完成・提出
第13回	秋期のためのテキストの輪読①	第28回	プレゼンテーション準備
第14回	秋期のためのテキストの輪読②	第29回	プレゼンテーション
第15回	まとめと第16回に向けてのガイダンス、夏季課題のガイダンス	第30回	卒論報告会への参加

上記項目は目安であり、進度により適宜変更・調整する。

到達目標

- ・『有価証券報告書』における「企業の概況」「事業の状況」の記載内容を知る。
- ・自らがテーマを探し、そのテーマについて共同作業でレポートを完成させる。（共同作業なのでチームにおける自分の役割を理解し、積極的に討論に参加する。）

履修上の注意

- ・専門演習は卒業までの2年間にかかわるので、登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・ゼミの活動は通常の講義時間以外のエクステンションセンター主催の各種講座、学外授業や懇親会への参加などを含む総合的なものであると考えているため、様々な履修指導を行う。

予習復習

- 予習・春期：各自の選択した会社の『有価証券報告書』の指定部分の報告レジュメの作成。
- ・秋期：テーマに関する報告資料の検索と討論で説明・回答するための内容の検討。
- 復習・春期：報告レジュメに対する討論内容を反映したレポートの作成。
- ・秋期：テーマに対する報告内容についての共著レポートの作成。

評価方法

上記の予習・復習及び報告・討論・レポートの内容などの参加姿勢を加点材料とする。一定程度、達成できたと判断すれば、定期試験は実施しない。

テキスト

春期はEDINETから出力する。秋期は学外主催のレポート提出企画に参加予定であり、送付される小冊子を配布予定である（なお、受講人数が少なければ別に1冊購入する（書籍未定））。

授業概要

各自の問題関心を重視し、これに応じた論文作成指導を行う。受講者は、研究テーマを決め継続的に報告し、討議する。最終的に卒業論文の基本的な内容の完成を目指す。自分が最も関心を持つテーマを見極め、これについて自分の意見をまとめられるように指導する。

授業計画

第1回	演習のあり方についての説明	第16回	論文の構成を立てる
第2回	各自の問題関心を明確にする	第17回	論文の構成を立てる
第3回	各自テーマを決める	第18回	論文の構成を立てる
第4回	資料を収集し報告する	第19回	論文を作成し順を追って報告
第5回	資料を収集し報告する	第20回	論文を作成し順を追って報告
第6回	資料を収集し報告する	第21回	論文を作成し順を追って報告
第7回	資料を収集し報告する	第22回	論文を作成し順を追って報告
第8回	資料を収集し報告する	第23回	論文を作成し順を追って報告
第9回	論文に必要な理論の学習	第24回	論文を作成し順を追って報告
第10回	論文に必要な理論の学習	第25回	論文を作成し順を追って報告
第11回	論文に必要な理論の学習	第26回	論文を作成し順を追って報告
第12回	論文に必要な理論の学習	第27回	卒業論文の草案の完成
第13回	資料を収集し報告する	第28回	卒業論文の草案の完成
第14回	資料を収集し報告する	第29回	卒業論文の草案の完成
第15回	資料を収集し報告する	第30回	卒業論文の草案の完成

到達目標

卒業論文のテーマを確定し、資料を収集し、必要な理論を学習し、論文の草案を作成する。

履修上の注意

論文の報告を欠かさないこと。

予習復習

各自ネット上からの資料収集を行うこと

評価方法

授業中の報告と発言による。無断欠席は認めない。

テキスト

授業中に指示する。

授業概要

日本の経済発展をリードしている企業として、トヨタ、ホンダ、日立、ソニーなどの大企業が浮かぶが、そこでのものづくりは多くの中小企業によって支えられている。たとえば部品が数万点を数えている自動車生産では、何万社という中小企業が部品生産に関わっている。また皆さんが持っているスマホは、国内生産ではなく海外生産品が大半を占める時代になっている。

本演習では、こうした日本のものづくりの基本的な特質と、グローバル経済の進展と共に激化している海外企業との競争という時代状況を、日本の大企業と中小企業の実態を学ぶことを通じて、今後の日本経済、日本企業の今後を展望できる能力を身につけることを目的としている。

授業計画

第 1 回	演習の概要	第 16 回	調査研究の基本について
第 2 回	日本産業と中小企業について①	第 17 回	調査研究のテーマ設定の留意点
第 3 回	日本産業と中小企業について②	第 18 回	文献検索の方法について
第 4 回	上記についての発表と討議	第 19 回	各自のテーマについての検討①
第 5 回	日本産業の海外展開について①	第 20 回	各自のテーマについての検討②
第 6 回	日本産業の海外展開について②	第 21 回	調査研究の発表の手順について
第 7 回	上記についての発表と討議	第 22 回	調査等の進行状況確認とアドバイス①
第 8 回	中小企業の海外展開について①	第 23 回	調査等の進行状況確認とアドバイス②
第 9 回	中小企業の海外展開について②	第 24 回	調査研究の発表と討議①
第 10 回	上記についての発表と討議	第 25 回	調査研究の発表と討議②
第 11 回	日本の地場産業の現状について①	第 26 回	調査研究の発表と討議③
第 12 回	日本の地場産業の現状について②	第 27 回	調査研究の発表と討議④
第 13 回	上記についての発表と討議	第 28 回	調査研究の課題と留意点
第 14 回	ゼミ生の関心事に基づく発表と討議①	第 29 回	論文作成に向けて
第 15 回	ゼミ生の関心事に基づく発表と討議②	第 30 回	演習のまとめ

到達目標

大学生として、自分で文献を読み、理解した内容をレポートにし、発表、議論できる能力を身につける。特定のテーマに関して、他人と自分の考えがどのように違うのかを理解する能力を身につける。

履修上の注意

私たちが生きている現代の経済社会では、解決しなければならない問題が山積している。なにが問題なのか、なぜ問題が解決できないのか、どうすればいいかの問題意識を持って、日本経済、日本産業、日本企業、中小企業の実態に関心を持つことが、本演習を履修する上で重要である。

予習復習

- ・ 日本企業、中小企業に関する新聞記事等に関心を持つこと。
- ・ 各テーマごとに、問題意識を持ち、レポートなどにまとめる。

評価方法

- ・ 授業参加の姿勢や、レポート作成、発表等を総合的に判断して評価する。

テキスト

- ・ テキストや参考文献については、必要に応じて演習中に指示する。

授業概要

中国経済について勉強する演習である。本を輪読し、議論する形式をとる。中国は最近 30 年間、持続的かつ急速な高度成長を成し遂げ、経済大国に成長し、注目を浴びているが、こうした経済発展のメカニズムや成長要因を解明するのが授業の目的である。特に「社会主義市場経済」とは何か、(典型的な市場経済とはいえない)中国経済の特徴は何か、「中国モデル」というべきものが果たして存在しているかどうか、などにスポットを当てて検討すると同時に、今後、解決しなければならない環境問題、所得格差問題などについても考え、議論していきたい。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション(演習内容、進め方、評価方法などの説明)	第 16 回	オリエンテーション(春期の振り返りと秋期の目標設定)
第 2 回	グローバル経済の中の中国経済①	第 17 回	中国の人口・労働力・雇用問題①
第 3 回	グローバル経済の中の中国経済②	第 18 回	中国の人口・労働力・雇用問題②
第 4 回	中国の改革開放政策の変遷①実験主義、漸進主義的手法	第 19 回	中国の「四農」(農業・農村・農民・農民工)問題
第 5 回	中国の改革開放政策の変遷②鄧小平の「先富論」	第 20 回	中国の戸籍制度①戸籍制度の成立過程
第 6 回	「社会主義市場経済」とは何か①「計画」から「市場」へ	第 21 回	中国の戸籍制度②戸籍制度改革と都市化
第 7 回	「社会主義市場経済」とは何か②株式制、証券取引所の導入	第 22 回	中国の戸籍制度③戸籍制度改革と「二重構造」の解消
第 8 回	「社会主義市場経済」とは何か③国有大企業の地位	第 23 回	環境問題①現状と対策
第 9 回	外国投資の役割①資本・技術・経営管理手法の導入	第 24 回	環境問題②経済大国としての責任
第 10 回	外国投資の役割②国際収支、雇用への貢献	第 25 回	エネルギー不足問題と新エネルギー開発の動き
第 11 回	地域開発と地域格差①	第 26 回	中国の「走出去」政策
第 12 回	地域開発と地域格差②	第 27 回	日中貿易関係
第 13 回	格差問題の現状と対策	第 28 回	日本の対中直接投資①中国事業の重要性
第 14 回	協調的な発展に向けて	第 29 回	日本の対中直接投資②中国事業のリスク
第 15 回	春期の内容のまとめ	第 30 回	秋期の内容のまとめ

到達目標

- 1、要領よくレジュメを作成できるようになる。
- 2、適切なコメントや疑問点を提出できるようになる。
- 3、中国経済に関する基礎知識を習得し、日本との異同点を理解できるようになる。

履修上の注意

- 1、報告内容に関連する補充資料の添付が望ましい。
- 2、報告内容に限らず、中国経済に関する幅広い議論を期待したい。

予習復習

報告者でなくても必ず予定の内容を通読すること。

評価方法

授業参加の真剣さや積極性、発表準備の状況及び報告内容、授業態度、期末テストを総合して評価する。積極的に議論に参加せず、居眠り、無気力・無関心の履修者はマイナス評価になるので、注意してください。

テキスト

初回の演習時間に指定する。

授業概要

「経営戦略の理論と実践」をテーマとする経営学領域の演習である。
 経営戦略とは、企業が存続発展するための重要な指針である。本演習では、将来社会で活躍できるビジネスパーソンを育成すべく、良い戦略と悪い戦略の違いについて書かれた文献を用いてその内容をじっくりと紐解きながら、「戦略とは?」、「戦略思考とは?」などを深く探究している。方法としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図る。

授業計画

第1回	概要	第16回	概要
第2回	良い戦略とは?	第17回	戦略の焦点
第3回	良い戦略とは?	第18回	戦略の焦点
第4回	悪い戦略とは?	第19回	戦略のダイナミクス
第5回	悪い戦略とは?	第20回	戦略のダイナミクス
第6回	強みの発見	第21回	戦略と慣性
第7回	強みの発見	第22回	戦略と慣性
第8回	戦略目標	第23回	戦略と仮説
第9回	戦略目標	第24回	戦略と仮説
第10回	戦略設計	第25回	戦略思考
第11回	戦略設計	第26回	戦略思考
第12回	プレゼンテーション	第27回	プレゼンテーション
第13回	プレゼンテーション	第28回	プレゼンテーション
第14回	プレゼンテーション	第29回	プレゼンテーション
第15回	総括	第30回	総括

到達目標

- ・ 経営戦略論の専門書を理解できる能力を身につける
- ・ 理解した内容をデータ化し解説できる能力を身につける。

履修上の注意

- ・ 指定する経営戦略の専門書を購入する必要がある。
- ・ 遅刻と欠席には厳しく対処する。

予習復習

- ・ 発表者は発表内容を文書化し全受講生は文献を精読して来ることが予習である。
- ・ 復習として授業の内容をデータ化する。

評価方法

- ・ プレゼンテーション能力の向上によって評価する。
- ・ この評価には内容・形式・発言などを含む。

テキスト

ルメルト著『良い戦略、悪い戦略』日本経済新聞社

授業概要

本演習では、消費税、所得税、法人税、相続税といった租税について、法律的、経済的、経営的に理解することを目標とする。参加する学生は、毎週のゼミで何かしら報告することを目標とする。租税については、新聞や雑誌で報道される場合が多いので、身近な問題から始めることとし、税制調査会資料を読み進め、最終的には裁判所の判決を読めるようにしていく。演習の一環として、裁判所などの見学を行う予定である。なお、公務員試験や税理士などに関心のある学生には別途指導する場合がある。

授業計画

第1回	イントロダクション	第16回	税制調査会資料読解その1
第2回	憲法と租税法	第17回	税制調査会資料読解その2
第3回	租税の見方・考え方	第18回	税制調査会資料読解その3
第4回	租税法主義	第19回	税制調査会資料読解その4
第5回	租税公平主義	第20回	税制調査会資料読解その5
第6回	日本の税制	第21回	税制調査会資料読解その6
第7回	諸外国の税制	第22回	税制調査会資料読解その7
第8回	脱税と租税回避	第23回	租税法判決の読解その1
第9回	裁判所などの見学	第24回	租税法判決の読解その2
第10回	所得税法概論	第25回	租税法判決の読解その3
第11回	法人税法概論	第26回	租税法判決の読解その4
第12回	消費税法概論	第27回	租税法判決の読解その5
第13回	相続税法概論	第28回	租税法判決の読解その6
第14回	租税法一般のまとめ	第29回	最終レポート報告会その1
第15回	中間レポート報告会	第30回	最終レポート報告会その2

到達目標

- ・毎週（簡単なものでいいので）何かしら報告できるようになること
- ・経済取引に関する知識を習得すること
- ・租税法に関する裁判例を理解できること
- ・法と経済の視点での議論ができるようになること

履修上の注意

- ・毎回出席する（欠席する場合は事前に理由等を説明すること）
- ・国税専門官や市役所などの公務員試験に関心のある学生の受講を特に歓迎します。希望があれば、別途指導することを考えます。
- ・ラптоップパソコンやタブレット端末を持っている学生はなるべく持参して下さい。

予習復習

- ・次回使用する資料を紹介するか、又は事前に配布するので、あらかじめ予習しておくこと。わからない点があれば事前に調べるか、ゼミで質問すること。
- ・ゼミ終了後には、必ず復習すること。

評価方法

出席を前提として、ゼミでの発言、受講態度、中間レポート及び最終レポートの内容等を総合的に判断して評価します。

テキスト

最初のゼミで使用する教科書及び参考書を指示する。その他必要に応じてレジュメを配付する。また、国税庁、財務省、裁判所等のウェブサイトから必要な部分を指示する。

授業概要

本演習では環境会計に関係した卒業論文作成の準備を行います。環境会計は企業の環境保全活動を費用対効果で定量的に測定し利害関係者へ伝達する仕組みです。春期は環境関連の基本書を輪読していきます。特に地球環境問題と持続可能な社会の形成に関することを学びます。秋期は環境会計の概要を学びその後に卒業論文の作成準備作業を行います。実際の企業の「環境報告書」を参考に卒業論文のテーマ選定の準備をします。本演習ではこうした環境会計などをテーマに卒業論文が作成できるよう指導します。

授業計画

第1回	環境会計の社会的役割	第16回	環境会計の現状と問題点の解説
第2回	地球環境問題と持続可能な社会とは何か	第17回	環境会計① 環境会計の概念枠組み
第3回	地球環境問題① 人口、食糧、資源	第18回	環境会計② 環境保全コストの構成
第4回	地球環境問題② 貧困、格差、経済	第19回	環境会計③ 環境保全効果・経済効果
第5回	地球環境問題③ 温暖化と低炭素社会	第20回	環境会計④ 環境報告書の構成
第6回	地球環境問題④ エネルギーと環境	第21回	環境会計⑤ 事例研究：トヨタ、マツダ
第7回	地球環境問題⑤ 生物多様性の意味	第22回	環境会計⑥ 事例研究：九州電力、NEC
第8回	地球環境問題⑥ 循環型社会、廃棄物	第23回	卒業論文のテーマ選定準備の概要説明
第9回	持続可能な社会① 震災関連・放射性物質	第24回	論文作成の基本① 論文の要件
第10回	持続可能な社会② 環境保全の取り組み	第25回	論文作成の基本② 論文の構成作り
第11回	持続可能な社会③ 環境影響評価	第26回	論文作成の基本③ 背景・問題設定とは
第12回	持続可能な社会④ 企業の社会的責任	第27回	論文作成の基本④ 先行研究の意味
第13回	持続可能な社会⑤ 環境マネジメント	第28回	論文作成の基本⑤ 注、引用、文献表
第14回	持続可能な社会⑥ ISO14001:2015版	第29回	論文作成の基本⑥ 卒論「仮題」の提示
第15回	まとめ 課題レポート	第30回	まとめ 課題レポート
春期	定期試験	秋期	定期試験

到達目標

- ・卒業論文作成の準備ができるようになること。

履修上の注意

- ・毎週各人にレジメを作成し報告をしてもらいます。
- ・正課授業科目「環境会計論」は必ず受講して下さい。
- ・エクステンションセンターの「ECO（環境社会）検定」講座をお勧めします。

予習復習

- ・毎日、「テキスト」の繰り返し精読（90分）をして下さい。

評価方法

- ・授業中の発言や報告内容、課題レポート等で総合的に評価する。
- ・授業態度不良者等は「不可」とする。

テキスト

開講初日に公表します。

- ・トヨタ『環境報告書 2016—トヨタ環境チャレンジ 2050 に向けて』ダウンロード可
- ・マツダ『マツダサステナビリティレポート 2016』ダウンロード可
- ・九州電力『2016 九州電力環境アクションレポート』ダウンロード可
- ・NEC『環境アニュアルレポート 2016』ダウンロード可
- ・河野哲也『レポート・論文の書き方入門第3版』慶応義塾大学出版会、など。

授業概要

本演習は、経済と経営は相互に不可分との認識に基づき、「経営学を学び、日本経済を知る」を基本方針として運営されています。これは、経営学、経済学のいずれかに軸足を置きながら、両分野を学べる本学の特徴をゼミ活動において体現したものです。

専門演習では、基礎演習で修得した経営学と日本経済の知識を発展させるとともに、卒論のテーマを絞り込み、発表技術や議論の作法もあわせて修得することを目的とします。前期は日本経済の特質を金融業界について考察し、後期は日本的経営の特質を、代表的な企業家の事例研究を通して考察します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス ー目的、方法、評価等ー	第 16 回	日本的経営の特質(1) ー組織体制ー
第 2 回	銀行の機能(1) ー信用創造機能ー	第 17 回	日本的経営の特質(2) ー人的管理ー
第 3 回	銀行の機能(2) ー金融仲介機能ー	第 18 回	日本の企業家(1) ー三野村利左衛門ー
第 4 回	銀行の機能(3) ー決済機能ー	第 19 回	日本の企業家(2) ー小林一三ー
第 5 回	証券会社の機能(1) ー証券業界の歴史と構造ー	第 20 回	日本の企業家(3) ー石橋正二郎ー
第 6 回	証券会社の機能(2) ー本来業務と付随業務ー	第 21 回	日本の企業家(4) ー松下幸之助ー
第 7 回	証券会社の機能(3) ー証券会社の行為規制ー	第 22 回	日本の企業家(5) ー大野耐一ー
第 8 回	金融政策(1) ー目的と手段ー	第 23 回	日本の企業家(6) ー稲森和夫ー
第 9 回	金融政策(2) ー貨幣経済と実体経済ー	第 24 回	日本の企業家(7) ー小倉昌男ー
第 10 回	金融政策(3) ー雇用と物価ー	第 25 回	研究テーマの概要発表(1)
第 11 回	国際金融(1) ー外国為替市場ー	第 26 回	研究テーマの概要発表(2)
第 12 回	国際金融(2) ー国際通貨体制ー	第 27 回	研究テーマの概要発表(3)
第 13 回	国際金融(3) ー国際金融実務ー	第 28 回	研究テーマの概要発表(4)
第 14 回	現代の金融問題(1) ー金融バブルの発生と崩壊ー	第 29 回	論文作成の手法
第 15 回	現代の金融問題(2) ー金融機関の破綻と再生ー	第 30 回	演習のまとめ

到達目標

本演習の目標は、基礎演習で修得した経済・経営学の知識を深めるとともに、卒論のテーマに対する履修者の学問的興味を絞り込むことです。分析能力、プレゼンテーション技術、議論の作法等を磨くとともに、研究成果を論文にまとめ上げるための基礎技術を修得します。

履修上の注意

前期は講義を中心にテーマを決めて議論する方式を採用し、後期は履修者に割り振られたテーマを順番にレポートする形式で演習を進めます。履修者は積極的に演習に参加することが求められますので、レポーターでない場合も事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが必要となります。

予習復習

前期は復習中心とした知識修得を目指しますが、後期は全員でテーマに沿って議論を行いますので、履修者は積極的に参加するためにも予習が求められます。

評価方法

前期末、後期末のテストあるいはレポートの結果を 70%、演習への参画度や取り組み姿勢を 30%の割合で評価します。

テキスト

【参考資料】

貝塚啓明・奥村洋彦・首藤恵著『金融[第 2 版]』(東洋経済新報社、2002 年)。

授業概要

マーケティングは企業活動においてなくてはならないものである。中小零細企業から大企業、学校から行政に至るまでマーケティングの考え方は応用できる。しかし、実際のビジネスにおいては、マーケティングは誤解され有効に活用されていないことが多い。何故そうになってしまうのか、それを企業の立場から検討していく。春期前半はマーケティングの基本について、事例を通して指導し、春期後半から秋期は各自設定したテーマについて検討し、卒業論文の構成を検討できるよう指導する。

授業計画

第1回	春期の演習の概要（初歩講義1）	第16回	秋期演習の概要
第2回	学生間の自己紹介（初歩講義2）	第17回	夏期課題の報告
第3回	マーケティング概念	第18回	ゼミ生による発表①-1
第4回	マーケティング戦略	第19回	ゼミ生による発表②-1
第5回	まとめ①	第20回	ゼミ生による発表③-1
第6回	市場機会の発見（環境分析とSTP）	第21回	まとめ③
第7回	4P	第22回	ゼミ生による発表①-2
第8回	サービス・マーケティング	第23回	ゼミ生による発表②-2
第9回	顧客満足と従業員満足	第24回	ゼミ生による発表③-2
第10回	まとめ②	第25回	まとめ④
第11回	論文テーマの選び方と文献検索の方法	第26回	ゼミ生による発表①-3
第12回	ゼミ生によるテーマと概要の発表①	第27回	ゼミ生による発表②-3
第13回	ゼミ生によるテーマと概要の発表②	第28回	ゼミ生による発表③-3
第14回	ゼミ生によるテーマと概要の発表③	第29回	まとめ⑤
第15回	春期演習のまとめ （夏期課題）レポート提出	第30回	演習のまとめ
		第31回	レポート提出

到達目標

春期前半はマーケティングの基本について事例を通して理解し、春期後半から秋期にかけて卒業論文を書くための準備として発表とディスカッションを繰り返し、卒業論文のテーマと目次構成を決めることを目標とする。

履修上の注意

- ①春期に1度特別講師を招き講演して頂く。その講演をもとに、さいたま市ニュービジネス大賞（学生部門）にエントリーし、最終発表会を見学してもらう。
- ②GWや夏期休暇中に、学外授業として企業訪問等に参加してもらうことがある。
- ③川口Fes.のボランティアや自治体主催のビジネスコンテストの見学などに参加してもらうことがある。
- ④正当な理由がなく遅刻する学生には厳格に対応する。また無断欠席は認めない。
- ⑤課題の×切を守らない者については厳格に対応する。
- ⑥課題レポートのコピペには厳しく対処する。

予習復習

- ①レジュメは各自インターネットからダウンロードして準備してもらう。利用方法は講義で説明する。
- ②夏期・冬期休暇に課題あり（指定書籍各休暇2冊（計4冊）の読了とその感想）。
- ③秋期授業では各自の卒論のテーマに関連する書籍を3冊以上読み、ゼミでその内容を発表してもらう。
- ④その他毎回の講義の中で事前に課題を指示する場合がある。

評価方法

授業態度（50%）、提出課題の内容等（50%）により、総合的に判断し評価する。

テキスト

テキストや参考文献は必要に応じて演習中に指示する。